



## あさかわ まちづくり ニュース

長野市浅川地区住民自治協議会 まちづくり計画推進委員会  
令和2年2月1日 第26号 委員長・山田 潤 編集・北條昭吾

### 信大工学部建築学科土本研究室によるブランド薬師調査・地質調査 発表会、ワークショップは3月7日（土）浅川支所で開催！

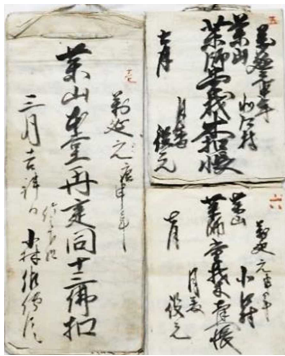
信大工学部建築学科土本研究室は昨年五回に渡りブランド薬師の現地調査を行ってきました。浅川地区まちづくり計画推進委員会（山田潤会長）八榎神社保存会（宮澤重徳会長）から、調査報告会をぜひ地元の住民に発表してほしいと要望。信大工学部土本教授からは、研究室の学生の卒論と地質コンサルタントによる調査研究発表、ブランド薬師の在り方を議論するワークショップをすることで合意、保存会では次の予定で開催します。

- 日 時 : 令和2年3月7日（土） 13時30分より  
場 所 : 浅川支所 1F 会議室（浅川住自協事務室北側）  
内 容 : ・信大工学部土本研究室のブランド薬師調査研究発表会  
・地質コンサルタント・工学博士・技術士（土質及び基礎）  
RCCM（河川・砂防）・地すべり防止工事士、長野高専  
非常勤講師による地質調査について 塩野敏昭氏  
・ブランド薬師の在り方についてワークショップ

参 加 : 希望者はどなたでも

### 北郷村総力で江戸時代・文久元年【ブランド薬師再建】果たす！

#### 『柱など住民が持ち寄る』再建1年前の古文書の現代語訳で解明



ブランド薬師は江戸時代の文久元年（1861）に再建されました。再建の経緯については冊子「ブランド薬師の歴史・八榎神社小誌」（小林朗氏・責任編集）の12ページに解説が載っています。

しかし、再建時の材木・寄附などの本数・寄附者などの詳細が分かっていませんでした。ブランド薬師再建時の古文書を所有している北郷・小林芳信さんから借用。令和元年12月に長野市立公文書館・西澤安彦専門主事に現代語訳をお願い12月26日訳された文章が返却されました。

古文書にはブランド薬師再建時、北郷村の住民から柱を誰が何本・寄附者名・金額・工事日程が記入され、「当村総郷中不残奉加」とあり、昔の北郷村地区村民（中曾根組・池平組・宮の前組・門沢組・城組・城の内組・竹之下組・三出組・畑山組・長原組・法利田組・市ノ瀬組など）が総力でブランド薬師を再建したことが記録されています。

#### ブランド薬師再建 1年前の古文書

古文書の現代語訳文章はブランド薬師を調査している信大工学部建築学科・土本俊和教授と、11月9日「ブランド薬師と十三仏」講演の講師・相原文哉氏に提供しました。

ブランド薬師再建時1年前万延元年の古文書の詳細な現代語訳の一部を見ると  
 壱 「薬山薬師堂再建者は万延元年5月18日ちょうな始、組中々材木寄附致、行立10年3月4日細工始、4月7日棟上仕、大工拾壱人程木挽四人、同廿日造作不残致、大工・木挽、同月18日屋根3人に屋根始、5月8日仕舞、同14日ふきをもり仕候、」など工事過程。  
 弐 「万延元年 北郷村 薬山奉加金請取おぼえ帳 3月吉日 発願人 佐傳治控」では、参与併せ寄附者102人の名と金額が示され、寄附のほとんどが地元北郷地区で集められています。

参 「万延元年 北郷村 薬山奉加帳請取おぼえ帳 3月吉日 発願人 佐傳治控」  
 四 「安政7年（万延元年） 北郷村 薬山常夜灯再建奉加帳 2月吉祥日 セ話方」

五 「万延元年 北郷村 薬山薬師堂材木扣帳 7月 月番 役元」では、ケヤキ2本・栗木1本・とが1本・破風板 いん板・大とが2本・杉1本など59人が持ち込んでいることが記されています。

六 「万延元年 北郷村 薬山薬師堂材木台帳 7月 月番 役元」でも、けやき2本・栗1本・杉1本3尺五丸り・栗大根だ1本・栗3間1丁など49人が持ち込んでいます。

「万延元年石工職人御請帳 3月日 薬山世話方」では相ノ木の石工 清助に支払った台石尺4寸・常夜・十三仏・供養冢の受取りが載っています。

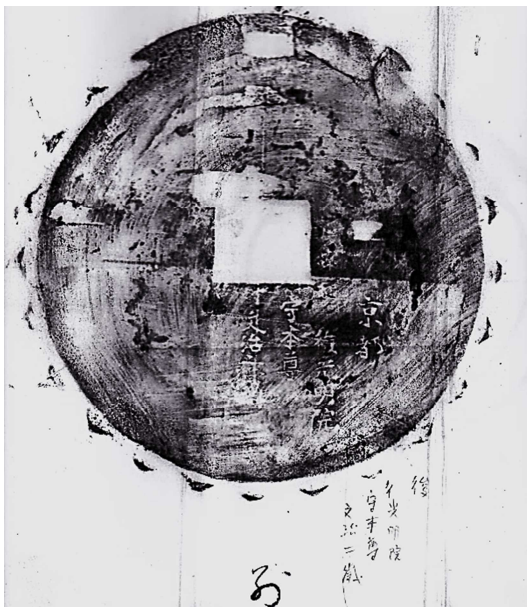
冊子「ぶらん堂薬師の歴史・八瀬神社小誌」を編集した小林朗さんは冊子の中で、「建築の世話人は佐傳治（頭立）始め、2月15日は21人。7月17日は18人の人たちが本堂再建、それに常夜灯、十三仏、石垣、記念碑、そして境内の整備に寝食を忘れて奔走した。

本堂再建と共に今までなかった十三仏を参道に安置して参拝する事となった。これも大仕事である。」と解説しています。

光明院外へ供養御布施等 1朱500文が支払われていて、善光寺光明院とのつながりがはっきりしています。

## ブランド薬師の疑問の解明へ

### 古文書にある薬師如来立像の台座は善光寺光明院の台座と合わない



古文書と一緒にあった  
薬師如来立像 台座拓本

左の拓本は、文久元年ブランド薬師が再建された1年前の万延元年の古文書と一緒にあった「ぶらんど薬師立像台座」の拓本です。

冊子「ぶらん堂薬師の歴史・八瀬神社小誌」を書いた小林朗さんは「前方に字が彫られていて京都・復光明院・守本尊・文治2歳といった字が判読できる」「今は現物（善光寺地震以前の薬師如来立像）を見ることができず、どういう意味か不明確であり、光明院にある像と寸法も構造も合わない」と記している。

相原文哉さんによると「この台座の真ん中に本尊をはめて、後ろ（上）の穴に光背をはめたのではないか」との事です

この拓本の台座に乗せた本尊は、光明院の本尊以前の本尊か？ 新たな疑問が出てきました。

### 「明治3年まで67年間、善光寺光明院へ

### 薬師如来の年貢を上納していた』資料見つかる

このほど入手した昭和10年発行の浅川郷土史（田中米吉氏編集）によると江戸時代の享和3年（1803）から明治3年（1870）の67年間善光寺山内光明院へ年貢米1俵若しくは2俵を上納していた記述があり新しい発見です。光明院との繋がりがはっきりした文章で注目されます。

浅川郷土史の501ページには次のような記述があります。

『薬師如来年貢の事』（松木甲久平氏蔵）

「享和3年亥極月より薬師如来年貢米一俵若しくは二俵を善光寺山内光明院へ上納せし受取証明治三年迄繼續せられつゝあり」

江戸時代末の薬師如来本尊の存在についてはっきりせず、疑問がありました。が新しい資料が発掘され、江戸時代から明治時代にかけて薬師如来本尊の存在の解明が期待されます。

浅川郷土史「薬師如来御年貢」の項

薬師如来年貢の事  
享和三年亥極月より薬師如来年貢米一俵若しくは二俵を善光寺山内光明院へ上納せし  
受取証明治三年迄繼續せられつゝあり  
（松木甲久平氏蔵）